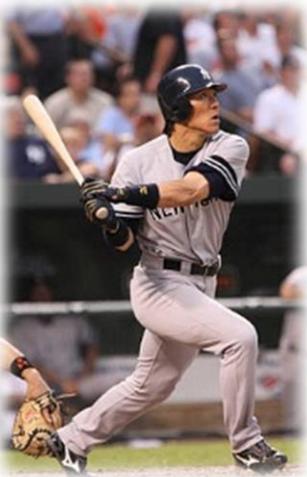


『一人の笑顔のために』

『命をだいに、人をだいに、心をだいに、物をだいに』

生徒の命と安全を守るために、中体連夏季大会の中止という苦渋の決断がなされました。中体連大会に向けて、これまで一生懸命に部活動に取り組んできた3年生には申し訳ない思いでいっぱいですが、全国の中学生、高校生、さらにはオリンピックを目指していたアスリートも同じ思いでこの難局を乗り越えようとしていることを思えば、新たな目標に向かって歩みを進めてほしいと願うばかりです。

大会はありませんが、家族や顧問の先生方やコーチなど多くの方の支えがあり部活動ができたことへの感謝の気持ちを忘れず、部活動引退の日まで頑張ってくれることを願っています。



野球界の“王道”を歩み、スーパースターの地位に君臨してきてもお、決しておごることなく、家庭やチームメート、支えてくれるスタッフ、応援してくれるファンに対してはもちろん、グラブやバットといった野球用具に対しても感謝の気持ちを表し続ける松井秀喜選手（2013年、国民栄誉賞受賞）。

なぜ感謝の気持ちを忘れないのでしょうか。中学校時代も数々の恩師やチームメートたちによっても、松井秀喜という人間は磨かれてきました。

中学校時代、敬遠されたことに腹を立てた松井が相手ピッチャーをにらみつけ、バットをたたきつけたとき、高桑充裕コーチは試合中にもかかわらず、「その態度は何だ！」ともものすごい形相で怒鳴りつけた。

「バットはおまえにとって何よりも大切な野球道具だろう。それを粗末にする者に、野球をする資格なんてない。それに、敬遠は立派な作戦だ。ルールで許されている。それより、ふてくされた態度をとったおまえのほうこそ、よっぽどルール違反だ」

このときの高桑コーチの教えは、3年後、甲子園で受けた伝説の5打席連続敬遠の際、松井が見せた態度に生かされていた。（平成4年8月16日、夏の甲子園の第74回大会、2回戦で対戦した明德義塾高校は、松井に対して5打席連続敬遠を行った。松井はこの試合、一度もバットを振ることなく星陵は2-3で敗退した。）

心 が変われば 行動 が変わる
行動 が変われば 習慣 が変わる
習慣 が変われば 人格 が変わる
人格 が変われば 運命 が変わる

中学時代の松井の才能に惚れ、自ら獲得に乗り出し、「松井がいる3年の間に、全国制覇を成し遂げる」と誓ったという星陵高校・山下智茂監督は、上の言葉を部室やベンチに掲げ、野球の技術だけでなく人としての道をも説いてくれたそうです。（参考文献：「はじめての道徳教科書」道徳教育をすすめる有識者の会・編）

◇松井秀喜選手のことば◇

「一本のバット、ひとつのグラブは、いろいろな人の苦勞によってできあがっている。」